



主な情勢

観光・物産の振興

本町は、自然・歴史・文化など、恵まれた地域資源を有しており、これまで仙台圏や首都圏などでの桃の販売や観光キャンペーン事業などを通して、積極的に町のPRを展開しています。

本町への観光客の滞在状況を見ると、滞在場所は1か所であり、他の施設に寄るといった観光回遊性は乏しい状況にあります。

一方、町の観光誘客拠点の一つである半田山自然公園については、各施設の老朽化が激しく、利用者が減少している状況にあります。

物産振興については、農産物や町内企業の加工品など、ふるさと産品のPRに努めています。町振興公社と連携した「至福の桃」シリーズについては、6次化商品として3種類開発し、特に、ソルベは美食女子グランプリやおもてなしセレクションで高い評価を受けたほか、グミはダボス会議^{*}で福島県のお土産として選定され、ゼリーについては、地元企業と共同開発した商品として、地域経済の好循環が図られています。

交流人口の拡大

本町は、半田山山開き、ホタル祭り、バーガーサミット、桃狩りツアー、駅前イルミネーションなど、町民や関係団体などと連携した各種イベントの開催や情報発信を通して、交流人口^{*}の拡大を図っています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントや県外でのPRなどが中止となり、観光入込客数も以前より減少していることから、コロナ禍の経験を教訓とした、新しい交流人口の拡大に資する施策の研究と実践が求められます。

地域づくり・地域振興

農業振興活動拠点施設「レガールこおり」は、平成30年のオープン以降、町内に新しい人の流れを創出し、町の魅力発信と振興につながっています。

また、町民研修センター「うぶかの郷」については、年々利用者が減少していましたが、指定管理者制度により民間事業者のノウハウが活かされたことで、以前よりも利用者数、収益ともに増加し、町の魅力発信に貢献してきました。

しかし、同施設は老朽化が激しく、修繕の度に莫大な費用がかかるなど、運営の在り方について検討が求められます。



賑わいをみせる伊達崎マルシェ(令和3年6月)

町が目指す姿

地域資源を最大限に生かした「桑折ならではの」施策に取り組み、国内外から魅力的な観光地として高く評価され、賑わいのあるまち

基本目標

項目	説明	基準値	目標値
観光入込客数	当町の各観光施設、イベントなどへの来訪者数	85,217人 (R2年)	200,000人 (R13年)

施策の方向性

施策6-1-1 観光・物産の振興

- 「献上桃の郷」商標および町ロゴマークを活用し、ブランドイメージの定着を図るとともに、首都圏や周辺市町村への町特産品などのPRを行い、町のイメージアップ、桑折ファンの創出に努めます。また、多様な主体と連携を図るとともに、デジタル社会の進展を踏まえ、新たな観光情報発信の手法を取り入れながら、効果的なPR・誘客促進を進めていきます。

主な取り組み

- 「献上桃の郷」商標及び町ロゴマークを活用した観光物産PR事業
- 近隣市町村との観光広域連携事業
- 民間事業者や大学と連携した事業
- SNS*・YouTubeの活用、オンライン広告などによる情報発信
- 半田山を活用した観光振興

連携課

産業振興課 教育文化課

施策6-1-2 交流人口の拡大

- コロナ禍の終息を見据え、仙台市などの大都市圏域をターゲットに、「桑折ならではの」地域資源、歴史・自然資源を生かした周遊性の向上と滞在時間の延長につながる観光誘客事業に取り組み、来町者の確保に努めるとともに、交流人口拡大や関係人口*の創出を図ります。

主な取り組み

- 歴史資源、自然資源を活用した町の特性や魅力発信事業
- 首都圏、仙台圏、東北中央道圏域を対象とした観光誘客促進事業
- 農業体験を活用した関係人口の創出
- レンタサイクルなどの活用による回遊性の向上

連携課

産業振興課 教育文化課 建設水道課

施策6-1-3 地域づくり・地域振興

- 町振興公社については、地域づくりだけではなく、農業振興部門の創設も視野に入れた農業分野の事業も担う組織への再編について検討します。また、町民研修センターについても、施設の修繕計画や指定管理の受託者の意向も踏まえながら、今後のあり方についての検討を進めます。

主な取り組み

- レジャーこおりを核とした地域づくり事業
- レジャーこおり管理運営業務委託事業
- 町民研修センターのあり方検討
- 一般コミュニティ助成事業

連携課

産業振興課

重要業績評価指標

KPI(重要業績評価指標)名	説明	基準値	目標値
レジャーこおり利用者数	レジャーこおりを利用した人数	17,439人 (R2年度)	22,000人 (R6年度)

分野別の計画等

協働する団体等

▼町商工会 ▼町内事業所 ▼大手旅行会社 ▼町振興公社 ▼県内大学

主な情勢

歴史的風致維持向上計画

史跡桑折西山城跡については、「桑折町歴史的風致維持向上計画^{*}」に基づき、5か年計画で整備を進めるとともに、大手道やガイダンス施設などの周辺整備事業に取り組みました。その集大成として「全国山城サミット桑折大会」を誘致開催したほか、サミットのイベントとして、「桑折西山城復元祭」「桑折西山城ライブ2020」を開催するなど、全国に「伊達氏発祥の地」と本町の歴史的遺産の浸透拡大を図りました。

また、歴史まちづくり講演会、歴史案内人育成事業などを実施し、町民が歴史的遺産に誇りと愛着を持ち、後世に引き継いでいく意識の醸成を図りました。

一方、桑折宿の面影が残る中心市街地については、旧伊達郡役所周辺整備を進めてきましたが、町並みの景観形成については、東日本大震災に加えて、震度6弱を観測した令和3年2月13日福島県沖地震の被災により、桑折宿の歴史的風致を形成する建造物の解体を余儀なくされている状況にあるため、計画の見直しを進める必要があります。

文化財の保護・活用

本町では、有形無形の歴史的遺産の保存と継承を行うため、史跡桑折西山城跡や万正寺の大カヤ、旧伊達郡役所など、文化財の環境整備に取り組むとともに、歴史的遺産の調査や文化財指定の推進に努めています。

平成28年度から整備が進んだ史跡桑折西山城跡については、来訪者数が増加しており、「全国山城サミット桑折大会」事業の成果が、より一層の誘客促進や交流人口^{*}の拡大につながっていくと期待されます。今後は、全国大会で知名度や注目度が増した史跡桑折西山城跡のレガシーを積極的に活用するとともに、良好な状態で見学してもらうため、町民や企業の参画による文化財の保護・保存体制を整えていく必要があります。

また、伝統文化に関しては、京都祇園囃子などの支援を行ってきましたが、高齢化による保存団体の解散など、後世への伝承に懸念が生じているため、担い手となる後継者の育成が求められています。

桑折町文化記念館

旧伊達郡役所については、適切な保存と管理に努めるとともに、企画展や郡役所カフェの開催、ライトアップ・イルミネーション事業など、まちの賑わい創出や交流人口の拡大に資する活用に取り組んでいます。しかし、屋根廻りや塗装など、経年劣化が進んできたところに、令和3年2月の福島県沖地震に被災したことから、再び大規模改修の検討を要しています。

また、桑折町種徳美術館については、地震被害からの応急復旧に努めていますが、桑折町文化記念館を拠点とした歴史周遊エリアの整備に当たって、歴史遺産ガイダンスや観光案内機能を果たせるなど、新たな利活用の検討が求められています。



国指定史跡桑折西山城跡(平成31年4月)

町が目指す姿 歴史的遺産の保存と活用、次世代への継承が図られ、郷土愛に溢れた歴史と文化のまち

基本目標

項目	説明	基準値	目標値
歴史や文化を学ぶ機会の満足度	町民アンケート調査において歴史や文化を学ぶ機会についての満足度で「満足」「やや満足」と回答した割合	25.1% (R元年度)	40.0% (R13年度)

施策の方向性

施策6-2-1 歴史的風致維持向上計画の推進

- 歴史的風致向上計画の前期5か年の事業成果や取り巻く情勢の変化などを踏まえながら、計画の見直しに取り組みます。
- 歴史案内人組織の充実と、歴史的遺産の回遊ルートの確立により、来訪者の利便性の向上を図るとともに、若い世代への継承を推進します。

主な取り組み

- 歴史的風致維持向上計画の見直しおよび推進
- 歴史案内人育成と体制の充実
- 既存の散策ルートを活用した歴史遺産周遊路の設定

連携課

建設水道課

施策6-2-2 文化財の保護・活用の推進

- 町民や民間との協働による歴史的遺産継承のための組織づくりを行います。
- 文化財指定を推進し、国、県指定文化財への格上げを働きかけます。
- 伝統文化保存団体の支援および発表の機会を提供します。

主な取り組み

- 史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり
- 文化財の新規指定と国・県指定への格上げ
- 伝統文化の継承に対する支援および発表の機会の提供

施策6-2-3 桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し

- 桑折町文化記念館の復旧に努め、建物の公開や利活用に関する機能の充実を図ります。
- 桑折町文化記念館を桑折宿周辺の中核施設と位置付け、歴史遺産ガイダンスや観光案内機能の充実を図ります。

主な取り組み

- 文化記念館の復旧
- 文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実
- 資料や美術品を保管・公開する博物館機能の充実

連携課

建設水道課

重要業績評価指標

KPI(重要業績評価指標)名	説明	基準値	目標値
町歴史案内人の利用者数	桑折町歴史案内人から説明を受けた年間来訪者数	600人 (R元年度)	700人 (R6年度)
「史跡桑折西山城跡を守る会」会員数	史跡の維持管理、案内などを担う団体への加入者数	0人 (R2年度)	100人 (R6年度)
桑折西山城跡の来場者数	史跡桑折西山城跡への年間来場者数	1,900人 (R元年度)	2,500人 (R6年度)

分野別の計画等

▼ 桑折町歴史的風致維持向上計画

協働する団体等

▼ 町歴史案内人 ▼ (仮称)桑折西山城跡を守る会 ▼ 町文化財保存会

施策 6-3 移住・定住の促進



担当課 建設水道課 総合政策課

主な情勢

人口減少対策

人口減少が進んでいる中、本町では平成27年度に「桑折町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策などに資する取組みを推進しています。

本町の人口動態調査では、人口ビジョン(平成27年度策定)の将来推計人口と比べて人口減少の幅が抑制されていることや子育て世帯の転入に伴う年少人口の社会増傾向などが見られており、若者定住支援や教育の充実、子育て支援、シティプロモーションなど、同戦略に基づいた事業が複合的に功を奏していることがうかがえます。今後も、住みたい町の環境整備に向けて、より一層、総合的な視点で各種施策を展開していくことが求められます。

若者定住促進事業補助金の申請者数

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
申請者数	30人	31人	35人	38人
世帯員数	115人	130人	105人	136人
町内転居	15件	26件	20件	21件
転入	15件	5件	15件	15件

資料：建設水道課資料

地方移住への関心の高まり

近年、田園回帰と呼ばれるように、都市から地方への移住・定住の動きが活発化しています。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大や企業のテレワーク*が広がったことなどを背景として、ゆとりある良好な住生活環境を求め、都市住民による地方移住への関心がさらに高まっています。

本町では、県や福島圏城市町村と連携した移住セミナーへの参加や、「桑折町お試し住宅*」の整備などにより、移住希望者との積極的な交流に努めていますが、近年は、コロナ禍で事業展開に支障が出ている状況があります。今後についても、アフターコロナを見据えながら、ICT*などを活用した情報発信や交流機会の充実に努めるとともに、多様な主体と連携しながら、移住・定住につながる関係人口*の創出や移住者受け入れへの取組みが求められています。



桑折町お試し住宅オープン(令和元年11月)



地域おこし協力隊を農業の新たな担い手に(令和3年6月)

町が目指す姿 「住み続けたい 住んでみたい」と思われるまち

基本目標

項目	説明	基準値	目標値
若者世代(0歳～45歳未満)の定住率(人口割合)	定住人口のうち、0歳～45歳未満の若者世代の人口割合	36.36% (2020年国勢調査)	40.0%以上 (R13年度)

施策の方向性

施策6-3-1 移住・定住の促進

- 移住・定住に関する情報発信に取り組むとともに、移住セミナーなどを通して、移住希望者の相談体制の充実を図ります。また、「桑折町お試し住宅」(ホタピーハウス)の利用促進やこおり暮らし体験事業などを実施し、移住につながる関係人口の創出に取り組みます。
- 若者を中心とした移住・定住の促進を図るため、引き続き住まいに関する経済的な支援に取り組むとともに、シティプロモーションや産業振興、空家等対策、教育・子育て支援など、より一層総合的な視点で施策を展開していきます。また、桑折駅前団地(復興公営住宅および災害公営住宅)の空き住戸については、子育て世帯が安心して暮らせる「新しいかたち」としての再活用に取り組みます。
- 地域おこし協力隊*の制度を活用して、大都市圏域に在住する地方移住に意欲的な人材の移住を促進します。特に、農業など、本町の産業の担い手づくりにつながる協力隊の増員に取り組みます。

主な取組み

- 移住・定住PR促進事業 ● お試し住宅の管理運営と新たな整備検討 ● 若者の住まいに関する支援事業
- 空家バンク*・空き店舗支援事業との連携 ● 地域おこし協力隊事業
- 移住者交流会 ● 産業振興・教育・子育て支援事業との連携 ● 桑折駅前団地利活用推進事業
- 移住・定住関係団体などとの連携

連携課

全課

重要業績評価指標

KPI(重要業績評価指標)名	説明	基準値	目標値
若者定住促進事業補助金等申請者数	若者定住促進事業と新婚世帯家賃支援事業の補助金を申請して移住・定住に至った若者世帯の件数	53件 (R2年度)	60件 (R6年度)
地域おこし協力隊員数	基幹産業である農業振興などを活動の中心とした協力隊員数	2人 (R2年度)	10人以上 (R6年度)

分野別の計画等

協働する団体等

- ▼福島県 ▼福島圏域移住定住促進協議会 ▼ふるさと回帰支援センター ▼全国二地域居住促進協議会
- ▼町内農家 ▼不動産業者 ▼金融機関 ▼地域おこし協力隊OB・OG ▼桑折まちづくりネット ▼JA
- ▼伊達果実農協 ▼町商工会



担当課 総合政策課

主な情勢

シティプロモーション*

少子高齢化・人口減少が進行していく中において、地域の魅力や住みやすさなどを内外に発信するため、各自治体によるさまざまなシティプロモーション活動が展開されています。

本町でも、地方創生・地域活性化を図るため、平成29年度から「献上桃の郷展開プロジェクト」としてシティプロモーションに取り組んでおり、町ロゴマークの制作や町PR動画の配信、各種情報媒体を活用した広報展開などにより、町の魅力や知名度の浸透拡大に努めています。

さらに、地域経済分析システム[※](RESAS)を活用した交流人口[※]調査を踏まえて、平成30年度からは仙台圏域を重点地域としたシティプロモーションに取り組み、「献上桃の郷」としてのブランドイメージ定着に努めています。

今後については、より一層の推進を図るため、全庁的な取組みはもとより、町民参加型の取組みの活性化が求められます。

休日の町内への地域別流入人口

地域	流入人口
県北	1,072人
県内(県北除く)	290人
宮城県	28人
山形県	9人
北東北	7人
首都圏	9人
その他	4人

出典：地域経済分析システム(RESAS：リーサス)

※土、日、祝祭日に町内に滞在した1日あたりの人数
(令和2年の年間平均値)



町ロゴマーク発表会(平成30年3月)

関係(交流)人口の創出

地方創生の推進には、移住・定住人口の獲得のみならず、観光振興による交流人口の拡大や、地域や地域の人々と多様に関わる関係人口[※]の創出が重要です。

本町では、地域資源を生かしたイベントの開催などで、交流人口の拡大に取り組むとともに、大都市圏域での交流会の開催などにより関係人口づくりに努めています。

今後も引き続き、都市圏域の住民などとの関係性を育み、町に好意を持って応援いただける人材を増やしていけるよう、関係人口の創出に視点を置いた各種事業の展開が求められています。



東北楽天ゴールデンイーグルス「献上桃の郷」桑折町デー(令和元年5月)

町が目指す姿

町民が誇りに思い、これからも住み続けたいと思えるまち
町外の方から行ってみたい、関わりたい、住みたいと思われるまち

基本目標

項目	説明	基準値	目標値
町民の住み続けたい意識	町民アンケート調査において「ずっと住み続けたい」「住み続けたい」と回答した町民の割合	86.5% (R元年度)	現状値以上 (R13年度)

施策の方向性

施策6-4-1 シティプロモーション戦略の推進

- 本町のシティプロモーションについて、町民をはじめ本町を応援する多様な主体の参画・協力が得られるよう、考え方や取組み方針などを取りまとめ、推進体制を整備していきます。
- 本町の多様な地域資源を活用したイベントを開催するとともに、紙媒体での情報発信はもとより、ホームページやSNS^{*}など、ICT^{*}を効果的に活用した情報を発信し、本町のブランドイメージの定着と知名度向上を図っていきます。

主な取組み

- シティプロモーション推進計画の策定
- 広報紙・ICT・SNSなどを活用した情報発信事業
- 仙台圏域PR事業
- 町ロゴマーク浸透拡大事業

連携課

全課

施策6-4-2 関係人口の創出

- 多様な主体と連携しながら、都市圏域住民や若い世代などとの交流事業を推進します。
- 各種交流や情報発信事業、企業版ふるさと納税制度(人材派遣型)事業などを通して、本町を応援してくださる方々の拡大を図り、移住・定住や観光物産振興、ふるさと納税、企業誘致の促進などにつなげていきます。

主な取組み

- がんばるふるさと桑折応援団の結成
- 桑折応援大使の任命
- 大都市圏域での交流事業の開催

重要業績評価指標

KPI(重要業績評価指標)名	説明	基準値	目標値
動画配信サイト登録者数	動画配信サイトにおける町公式チャンネルの登録者数	77人 (R2年度)	500人 (R6年度)
がんばるふるさと桑折応援団の登録者数	結成予定の「がんばるふるさと桑折応援団」への登録者数	— (R2年度)	200人 (R6年度)

分野別の計画等

▼シティプロモーション推進計画

協働する団体等

▼町民 ▼桑折町を応援する人・企業